

平成28年度第2回まちづくり懇談会 議事要旨

日 時：平成28年7月6日（水） 午後3時00分～

場 所：船橋市役所9階 第2応接室

団体名：船橋援農クラブ

テーマ：「農ある暮らしで健やかで生きがいの持てるまち」

1. 開会の辞 【 船橋援農クラブ代表 野口 廣之 】

船橋援農クラブは、農水産課の指導のもとに平成24年2月29日に発足し、今月で4年と5カ月になる。援農活動に加えて、収穫野菜の提供や児童・生徒を対象とした農業体験などのボランティア活動も行っており、援農先農家や関係の方々に喜んでもらうことで我々一同も喜びを感じている。今後も、農あるまちづくりのために貢献をしたいと思うので、ご支援願いたい。

2. 出席者自己紹介

3. 市長挨拶 【 船橋市長 松戸 徹 】

いつも、援農クラブの皆さんは献身的に頑張ってくれているので助かっています。船橋市は都市化が進んでいますが、都市農業は非常に大事な産業です。若手の後継者も、他市と比べても非常に多い地域ですが、耕作放棄地の問題や、都市部ならではの課題も多くあります。援農クラブの皆さんが、活動を展開していく中で、農家の方ではないからこそ気付く部分というものを、様々な形でやりとりしたいと思っているのでよろしくお願いします。

4. 活動報告

主な活動としては、援農活動（農家の農作業を支援）、ボランティア活動、自主耕作活動、この3つが大きな柱である。

援農活動では、毎日3人から5人が活動しており、時期によっては草むしりがメインになることもある。

ボランティア活動では、自主耕作でつくった人参、キャベツ、大根などの野菜を、施設へ年4回提供している。

また、市立船橋特別支援学校の芋掘り大会を催したり、NPO法人うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋と一緒に芋掘りをして、参加者に喜んでもらっている。

5. 懇談

○団体

健康的な生活や新たな目標と生きがいを持てる『農ある暮らし』を実践することで、近隣の住民、あるいは親と子、目的を同じくする仲間同士の交流が生まれ、地域の美化や活性化につながり、船橋の農と農地を次世代に継承することが出来ると考えている。

市民参加の『農ある暮らし』を実現するには、受け入れのための農地が必要となる。重い労務負担から営農の継続が困難になった農家が体験型農園に転換する際には、当クラブが支援、協力して一般市民の方々の農ある暮らしへの参加を促し、休耕地や耕作放棄地があれば当クラブがその再生を受託して、市民が参加する体験型農園として再生させたいと思っている。

このような将来構想の実現には、クラブ会員の増強と、広範な市民（シニア世代、親と子供等々）に、『農ある暮らし』に参入してもらうための、船橋の農と農地についての啓発活動が必要である。

i. シニア世代の人材確保について

○団体

援農先の農家の方からは、「毎日来てほしい」「クラブの方のおかげで非常に助かっている」といった声や、他の農家の方からも援農して欲しいといった声もあり、当クラブの会員拡充が重要なポイントである。

当クラブは、市の「農業ボランティア要員育成講座」を修了した者等で構成されているが、新たにシニア層の人材を確保し、市民の農業への理解と参画を促し、当クラブの円滑な健全経営に資するためには、市から独立した後も、当

面、「農業ボランティア要員育成講座」の受講生を、毎年度20名程度確保してもらいたい。

また、現在在籍する会員の高齢化、病気などによる退会が、経年とともに発生しているため、その補充を図る観点からも農業ボランティア要員の育成に継続的な市の協力が必要である。

ii. クラブの核となる基盤整備について

○団体

現在、農業センターに拠点を置いているが、これから会員が増え、新たな拠点を作る場合、事務所の設置や、圃場に資材倉庫を設置したいと考えている。

また、市民参画型の体験農園の運営も、将来的に当クラブで行いたいと考えているが、耕作する機械関係や事務所設置での支援をお願いしたい。

iii. 啓発活動について

○団体

会員を増やすためには、ホームページ、ミニコミ誌、マスメディア等を活用し、認知度を上げるためのPRが必要である。

現在、広報ふなばしでも援農ボランティア講座の募集をしているが、募集機会が少ないので、出来るだけ目立つようにしたり、市ホームページ等での募集もお願いしたい。

また、当クラブは、農水産課の事業としても活動しているので、農水産課のホームページで、継続的に掲載したり、活動をPR出来る場として市で行っている様々なイベントを紹介していただければ積極的に参加したい。

iv. 生産者と周辺住民との交流の推進について

○団体

園主と地元住民の親交を図り、相互理解を深めようと園主が庭を開放して、野菜の即売会を開催したが、その趣旨に賛同し、当クラブも場所の設営や売り子、レジ等の人的なバックアップとして会員を派遣した。当クラブが作った野

菜も陳列販売したが、非常に好評で予定を1時間早く完売し、手応えを感じたため、これからもやっていきたいと思う。

将来的に、アンデルセン公園で、当クラブがつくった野菜及び、援農先の農家が作った野菜の直売施設を開設したいと思っている。多々問題点はあると思うが、実現できれば、来園者に対し船橋の野菜のPRが出来、来園者は安くて新鮮な土産が入手出来る。そして、生産者は販路拡大に資し、当クラブの会員を増やす一助になるかと思うので、将来的に考えていきたい。

v. 耕作放棄地の保全回復及び農地法の法的配慮について

○団体

農業従事者の高齢化、後継者不足、さらに都市化の波が押し寄せており、宅地化など農地転用が進み農地の保全が難しくなっている。耕作放棄地には病虫害が発生するため、近隣住民に迷惑がかかるほか、草花の種が飛散して隣接する農地へ悪影響を及ぼすため、当クラブとしては、遊休地（休耕地）や耕作放棄地の保全対策を考えており、農地保全の一助になればと思っている。

対策として、市民のレクリエーション、農業実施研修、子供の環境教育等の場として、さらに高齢者の癒やしや機能回復の場としても、体験型農園を実施しようと考えており、運営するための用意もしている。

また、場合によっては営農者とタイアップした方法も考えている。

他にも、突然、営農者が病気や怪我等、突発的な理由により耕作出来ない状態となった時に、当クラブからトラクターの操縦者を派遣し、農地の保全につながるような活動が出来ればと思っている。そのためには、クラブ員の養成、クラブの拠点、資材倉庫、工作機械の整備等の基盤整備が必要である。

他にも、当クラブが農地を借りて営農活動をするに対しては、いろいろと農地法等の制約があるため、将来、農地の借り受け、農家から受託できるような特例措置や、基盤整備のための協力が必要である。

vi. 大型農機具等の供与について

○団体

耕作放棄地や遊休地の解消、特に雑草の管理等に当クラブの貢献が期待されている。当クラブが遊休地の管理をするにあたり、トラクターと管理機は、最低限使えなければならないが、日頃から使い慣れていないと危険であるため、当クラブで自由に使えるようなトラクターが1台あるとありがたい。

将来的に、当クラブにトラクターや管理機での雑草管理を受託できるような専門部会ができれば、船橋の農業政策の一環になるのではないかと。

○市長

シニア世代の人材確保の話については、団塊の世代で現役を退いた後、地元で活動をしないう方がたくさんいるため、様々な分野の団体の共通した悩みとなっています。後継者に入ってもらうためにも、農業の楽しさをPRしていく必要があるため、市としても様々な機会に情報発信していきたいです。

例として、援農クラブの紹介ビデオをつくり、動画サイト等に投稿するなど、新しい切り口でのPRをしてみてもいいのではないのでしょうか。援農クラブの活動は今後の船橋の農業を支えていく上で非常に大事なもので、一緒に知恵を出したいです。

○団体

東京オリンピックの年までには100人体制にしたいが、現在はまだ30人強しかおらず、本年度の受講生も12名である。来年になっても50人に届かないような状況であるが、来年独立した後もクラブの基本となる人材の育成について、市の協力がなければ、当クラブの会員が増えないのではないかと危惧している。

○市長

施設の拠点の話だが、耕作放棄地等があったとしても、トイレや駐車場等の設置は法の規制が厳しく難しいです。

先ほど、体験型農園の話もありましたが、耕作放棄地を活用して体験型農園を開設することは、農業委員会の今年のテーマの一つですが、市が市民農園を開設するのではなく、農家が自立し収益がある形にしていかなければなりません。

そのうえで大事なことは、車で来園できることや、水タンクを置いて水が使えるといったところなので、農業委員会としても難題ですが、できる可能性もあるので今年のやり方によって、返答も変わってきます。

○団体

その辺もお手伝いができるの良い。

○市長

運営を援農クラブの方たちが手伝ってもらえると視野が広がりますね。

○団体

そのとおりである。

○市長

PRについては、他にも市の広報誌に載せたいという声が多く難しいが、工夫しようと思います。

○団体

公民館や、フェイスの窓口にチラシを置くというのはどうか。市民がよく行く場所に置いて、自由に取っていけるとPRになる。

○市長

チラシについては、市で作成できるので協力します。トラクターについては、どのぐらいの規模を考えていますか。

○団体

20馬力は必要。ハウスの中に入る程度の大きさが良い。

過去に、JAの倉庫が何カ所もあり、農家が順番で農機具やトラクターを借りることができるシステムがあったが、船橋市でも、要請の多い地区の遊休地に倉庫をつくり、トラクターを配置してみてもよいと思う。

○市長

トラクターが手に入ったとして、どの範囲で使うことを想定していますか。

○団体

現時点では、農業センター周辺の地域だが、将来的に遊休地を借りて倉庫ができれば範囲が広がる。

○市長

これは、農業センター長と相談します。

きれいな圃場であれば20馬力のトラクターでも機能しますが、草が繁茂している圃場だとロータリーを入れても止まってしまうことは、農家の人も認識しているので、大きなトラクターを持っている農家の方にやってもらうのではないのでしょうか。先ほど話した体験型農園等、常に誰かが使えるような下地を作るほうが現実的ですね。

○団体

そうですね。要請があれば、定期的に当クラブがかかわってもいい。

○市長

トラクターについては、予算のこともあるため返事は出来ません。

○団体

しかし、トラクターは普段から使い慣れていないと危険である。

また、自主耕作活動にも必要であるため、経験を積みたい。

○市長

援農時の謝礼は、今後の組織運営のために、上げることは考えていますか。

○団体

無料でやりたいが、今は交通費という形で頂いている。昨年からは販売も少し手がけているが、それだけではなかなかやっていけない。

○市長

活動をしっかりしたものとするためのマネジメントをどこかでやらなければならないですね。

○団体

そうですね。農家の方も謝礼を上げることについて反対してはいない。

しかし、お金の換えるほどの技術や実力が我々にはないので、値段を上げればいいというだけでは解決できない。

○市長

わかりました。

皆様の活動は、市としてもありがたいし、大事な役割を果たしていただいているので、また改めて、話し合いの機会を持ちたいですね。

○一同

ありがとうございました。

— 了 —